



北関東一だったにぎわいも 空洞化進み新しい施策が必要に

かつては北関東で最初に街路灯がともし、活気にあふれていた前橋の中心市街地。ここ数年は、全国で多くの地方都市がそうであるように、大型店の撤退や個人商店の閉鎖などで空き店舗が増え、人通りも少なくなっていました。

しかし、かつてのにぎわいを取り戻そうとマイバスの運行、特徴ある店舗の登場、工夫を凝らしたイベントなど、新しい動きが起ころっています。これからのまちづくりには、行政と市民の皆さんが一体となって立ち向かわなくてはなりません。ここでは、中心市街地の成り立ち、個性的な店舗や商品、楽しいイベント、

これまでの歩み

本市は畑地が多く蚕の餌となる桑の栽培に適した風土であったため、江戸時代から養蚕が盛んでした。十九世紀に入り横浜港から生糸や絹織物が世界へ輸出されるようになると、地理的に恵まれた前橋の養蚕業と生糸生産は隆盛を極め、中心市街地は繭と生糸の生産者や流通にかかわる人たちが大いににぎわいました。

明治十四年に県庁を誘致し、明治二十五年には関東で東京、横浜、水



特色を出して皆さんをお待ちしています

みんな まち へ行こう

再生

生。人々が中心市街地に求めようになつて久しくなりました。なぜ活性化が必要なのでしょう。中心市街地がにぎわい、楽しく魅力にあふれていたら、わたしたちは自分たちのまちに誇りと愛着をより強くするでしょう。訪れた人もまた来てみたいと思うに違いありません。かつて中心市街地が「まち」と呼ばれたころの活気を取り戻そうと、商店主や多くの人たちが取り組んできました。その取り組みや個性的な店舗、楽しいイベントなど最新の状況はどうなのか探りました。皆さんも中心市街地へ足を運び、新しい発見をしてみませんか。

問い合わせはにぎわい課 2102188へ。

取り組みの成果が

前橋の中心市街地は、県内でもまれにみるほどたくさんの小売店舗が集まっています。また、広瀬川が清らかな流れ、自然が美しく文化の薫りも高い場所です。本市では、ほかにはない魅力を持った中心市街地の再生を重要課題と位置付け、中心市街地活性化基本計画の策定、TMOの認定などを行いました。昨年には中央通りと銀座通りの交差点近くににぎわい課を設置、現場に身を置き、多様な施策を展開しています。

このような中、個性的な店舗や新しい商品の登場、市民団体や商店街によるイベントの開催などで、徐々ににぎわいが復活しつつあります。

中心市街地の歩み

年	内容
昭和20年	前橋空襲・終戦
昭和22年	初のエスカレーター登場
昭和37年	立川町通りに街路灯
昭和39年	中央通りアーケード建設
昭和39年	前三百貨店、長崎屋開店
昭和43年	弁天通りアーケード建設
昭和47年	丸井前橋店開店
昭和47年	スズラン、ニチイ開店
昭和50年	西友前橋西武店開店
昭和58年	オリオン通りアーケード建設
平成60年	長崎屋、前三百貨店撤退
平成61年	丸井前橋店撤退
平成64年	前橋テルサ開館
平成65年	ニチイ撤退
平成66年	市営パーク千代田開設
平成66年	前橋文学館開館
平成66年	市営パーク城東開設
平成67年	中心協組合設立
平成9年	市営パーク五番街開設
平成12年	コムネットO発足
平成13年	ここにこパーキング開設
平成14年	スズラン新館オープン
平成16年	マイバス運行開始
平成16年	リヴィン前橋撤退
平成16年	にぎわい課設置